

Tsumugi



TSUMUGI vol.3では、地域連携センター長の白崎医師に、今の加賀市の医療・介護環境と、医療と介護・行政をつなぐ人と情報の拠点として開設した「つむぎ」の5年間の変遷とこれまでの思いを語っていただきました。

2016年、座談会で「何年後には市民のニーズに応じて変わっていく」と語られていました。そして2021年。これからさらに何年後、加賀市医療センターと「つむぎ」はどうなっていかなければならないのでしょうか。白崎医師にこれからの地域連携についてお聞きいたしました。

INTERVIEW



『地域連携センターつむぎ』の未来について

加賀市医療センター
副院長 白崎 直樹



INTERVIEW
04

これからの連携はどのようなことが大切になると思いますか？

今までは、能率やコスト重視の連携の取り組みが行われてきていますが、これからは、倫理観を持った、「相手と丁寧に話ができる力」が、最も大切になると考えています。これは、患者さんや利用者さんにもわかりやすい透明性を保つという一面もあります。

連携の現場では、患者さんに対してだけでなく、看護師や医師に対して、リスペクトを持った接し方ができると求められます。そもそも多職種連携とは、お互いが強みを持ち寄って知恵を出し合うことで、良い結果を導き出す作業です。「つむぎ」には、このような連携の場を設け、加賀市の医療と介護連携へのエネルギーを絶やすことなく、「人の心がわかる医療人・介護人材」を育てていく役割があると考えています。



INTERVIEW
05

加賀地域において、今後この病院はどのような役割を担っていくことが必要でしょうか？

新病院建設の際は、当時の「救急患者の市外搬送」を問題視して急性期の病院の役割強化に重点を置いた取り組みが行われましたが、現在の当院の問題は「ポスト救急問題」です。救急で搬送される患者は、「肺炎」しかり、「大腿骨頸部骨折」しかり、「慢性心不全」しかり、「脳梗塞」しかり、「尿路感染症」しかり、何度も繰り返し「急性悪化を繰り返して衰えていく病氣」が大半を占めています。そのため、2025年までは、医療必要度の高い重度介護者が増え続け、療養型病床や介護医療院が、50床程度足らないと分析しています。その後は、加賀市の人口減少が加速することもあり、急性期医療はだぶつき気味となり病院は暇になり、業務の変化を求められるでしょう。このときには、急性期だけでなく、慢性期治療や、医療分野の強みを生かした介護サービスへの参入を考える日が来ることが予測されます。

病院は、病院のみで存在するわけではありません。新幹線の開業は一つの節目となるでしょうが、病院は、駅前の街づくりのコアとなることは間違いありません。現在は市役所の人たちが多くのヴィジョンを提案していますが、病院にも有能な若い人がたくさんいます。働く若い職員から、継続的な「病院を軸にしたまちづくり」の議論提案があっても悪くないと思います。

令和2年度 加賀市医療センター 地域連携交流会

令和2年12月17日(木)



令和2年度
加賀市医療センター 地域連携交流会次第

日時 令和2年12月17日(木) 9時~12時

- 開会のあいさつ
加賀市医療センター 病院長 小橋 一治
- 新任挨拶及び加賀市医療センター方針について
事業管理室 清水 康一
- 当院における新型コロナウイルス感染症対策について
感染管理室長 近澤 博夫
- 新任医師紹介(ビデオレター)
- 連携実績報告
地域連携センターセンター長 白崎 直樹
- 閉会のあいさつ
加賀市医師会長 上朝 直人

新型コロナウイルス感染症の状況をうけ、何回もの検討を重ね、Web開催となりました。最初参加予定者は50名あまりでしたが、Web視聴はその半数でした。すべて院内職員による企画・運用で、変更連絡の不備、Web環境の調整不良など、ご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。今回の交流会は、厳しい状況が続く中、新しい地域交流のあり方を模索する機会となりました。

講演内容



「新任挨拶及び 加賀市医療センター方針について」

病院事業管理者 清水 康一

当院の概要と経営方針、基本理念の説明後、今年度までの医師数、患者数、経営指標を紹介。令和2年度の厳しい現状が報告された。今後のビジョンとして高い水準の病院機能、高い職員満足度、安定した経営基盤、地域のニーズに応える医療サービスの提供などを示した。

「当院における新型コロナウイルス 感染症対策について」

感染管理室長 近澤 博夫

当院の対策として、基本的知識を共有するための現状説明と15巻の豆本発行、感染防御策の再確認、発熱外来をはじめとするハード面や検査機器整備など、病院全体での取り組みを紹介。多くの写真を用いての報告は院内のあらゆる所に感染対応が行き届いていることに改めて気付けた。後日、豆本に対する問い合わせがあり、全巻を郵送させていただいた。

「連携実績報告 2020」

地域連携センター長 白崎 直樹

昨年度の実績、救急・入院・外来患者の推移を報告。今年度の医療や地域連携交流のあり方が一変したことを実感した。地域支援病院を目指し、紹介・逆紹介率の向上への取り組みの中、逆紹介率の変化と主だった連携機関との連携状況を紹介した。当院の加賀市で果たすべき役割が数値とともに示された。

基幹型初期臨床研修医の2年を終えて

基幹型初期臨床研修医 齊藤 謙二



加賀市医療センターで過ごした初期研修もいよいよ大詰めを迎えております。医師としての土台となる研修の中で身についたことの一つは、「患者さんに寄り添い、話をよく聞いてどうしたいかを掴むこと」です。病歴を聞いて治療するのみならず、社会的背景を踏まえ生活の中にどう帰っていただくか、包括的に取り組む姿勢が身についたように思います。全人的医療とえば聞こえはいいかもしれませんが、このようになったのは病院における治療から介護・医療サービスを調整した退院まで、多職種が関わる地域医療のシームレスな連携を院内にいながら体感できていたからだと考えております。

基本 理念

「おもいやり」

私たちは、市民とともに、市民中心の医療を提供し、市民の健康を守ります

基本 方針

1. 信頼される最適な医療を提供します
1. 救急搬送をことわらない体制を目指します
1. 将来を担う優れた医療人を育成します
1. 地域に根付いた医療を実践します

編集後記

今年度、共に地域の医療をつくっていく皆様に加賀市医療センターをもっと知っていただきたいという思いより、広報誌「Tsumugi」を再発行いたしました。日頃あまり聞けなかった方々の思いを伺い、多くの刺激を受けました。

発行 加賀市医療センター 地域連携センターつむぎ

〒922-8522 石川県加賀市作見町36番地
TEL 0761-72-1188 (代表) TEL 0761-76-5133 (直通)
E-mail renkei@city.kaga.lg.jp http://www.kagacityhp.jp

